

●9月26日(土)から、紙の調査票を配布します

平成27年「国勢調査」は、10月1日(木)を期日として、国内に住む全ての人口・世帯を対象に実施される、国の重要な統計調査です。この調査の実施に当たり、9月26日(土)から、事前にインターネットによる回答をいただいていない世帯を、1軒ずつ国勢調査員が訪問しながら、紙の調査票を配布します。



記入が済んだ紙の調査票は①調査票と同時に配布される「郵送提出用封筒」(細長い封筒)に封入し、総務省へ郵送する②国勢調査員に直接渡す③の、いずれかの方法により、ご回答ください。

国勢調査員による調査票の回収は、10月1日(木)以降、順次行いますので、調査へのご協力をお願いします。

●かたり調査にご注意を!

調査員が金品等を要求することはありません。国勢調査員を名乗った不審な訪問や電話・電子メールなどがあったときは、総務課へお問合わせください。

●問合わせ

東海村総務部総務課統計・IT管理担当(☎282局 17111 内線1316)、または国勢調査コールセンター(☎0570・07・2015、IP電話03・43300・2015 ※いずれも設置期間は10月31日(土)までとなります)

「国勢調査」調査票への記入をお願いします!

ふるさと歴訪 ー歴史を再発見ー

伊能忠敬の奥州紀行

伊能忠敬(1745~1818年)は、全国の沿岸を測量し『大日本沿海輿地全図』を作成しました。測量のために忠敬が村松を通過したのは、1801(享和元)年のことです。

忠敬は、上総国の名主の子として誕生し、1762(宝暦12)年、佐原の酒造家であった伊能家の婿養子となりました。1794(寛政6)年、49歳のときに隠居した後、測量のために全国を奔走しますが、その前半生は花鳥風月に親しみ、詩文をたしなむ、典型的な地方豪商の主人でした。

1778(安永7)年、忠敬は妻(みち)と従者2人(清兵衛、利兵衛)を伴い、奥州松島への旅に出ました。5月28日に佐原を立、北浦を船で北上して銚田に着岸、縦山を経て子生から海路で那珂湊へ。那珂湊から陸路で馬渡を通り、村松に到着したのは5月31日のことでした。馬渡、村松間の移動には、馬に荷物を載せて運んでもらい(軽尻)、駄賃49文を支払っています。

村松に来てみると、多くの虚空蔵堂への参拝者が往来していました。この様子を忠敬は、村松山虚空蔵堂は「繁昌(繁盛)なる堂」である



「旧宅」前の伊能忠敬像

人として、米相場に高い関心を持っていました。この旅行は、「奥州米」の状況視察も兼ねていたのではないかと推測されます。

6月18日に常陸太田で城跡を見学。水戸から長岡、玉造、牛堀を通過して、6月21日に佐原に帰還しました。

と記しています。

「打ち続く大雨」の中、参拝を済ませた忠敬一行は、村松宿で何とか人馬を確保して、石神へと向かいます。昼九つ時(正午ごろ)に石神に着いた忠敬一行でしたが、衣服を濡らして「甚だ難儀」してしまいます。旧暦の5月末で、日が長い時期でしたが、あえて先を急がず、石神問屋の多兵衛宅に宿泊させてもらうことにしました。多兵衛は、人馬の継ぎ立て業務を行う問屋の主人でした。

とうかい村いきいきガイドの会顧問

宮内 教男